



■景観の特徴、地域特性

桃山配水計量室は、通称、六角堂と呼ばれているが、実際の形状は八角形である。外観はゴシック様式のれんが造りで、中世の城をイメージさせるこの建物は、宇部市の近代化を象徴する最も古い水道施設である。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

六角堂は、大正13年に建設された給水量を測るための施設で、国の指定登録文化財、近代化産業遺産に指定されている。市街地を見渡せる場所に位置し、宇部の近代化の足跡と現代を一度に見ることができる。

■景観の見方（主な視点場）

この建物を通して市街地を望む景観は、近代と現代の調和を感じることができる。



所在地：宇部市小串

- アクセス ●電車：JR宇部線宇部新川駅～徒歩で約15分
●車：山陽自動車道宇部ICから約10分



■景観の特徴、地域特性

地区内において、電線類の地中化やれんが・自然石を用いた舗装など、景観に配慮された外部空間が形成されている。また、屋根の材料・勾配や外壁の色の統一、建物1階部分の壁面の後退等により、統一感のあるまちなみとなっている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

中央町三丁目地区は、戦災を免れた経緯等から基盤施設が未整備であり、老朽化した店舗や住宅が密集した地域であった。これらを解消し、良好な居住環境と賑わいの創出並びに防災面の向上を図ることを目的として、「街づくり協定」による建物の協調化による建替えや土地区画整理を実施し、現在のまちなみが発現した。

■景観の見方（主な視点場）

地区内の道路交差点部に設けられた広場に立ち、周囲の美しいまちなみを眺めるのがよい。



アクセス	所在地：宇部市中央町三丁目
	● 電車：JR宇部線宇部新川駅～徒歩で約5分
	● 車：山陽自動車道宇部ICから約10分



■景観の特徴、地域特性

中心市街地に近接しているにもかかわらず、戦災を免れた古い家屋が残っており、歴史ある落ち着いたまちなみが形成されている。丹精に手入れされた生け垣と宇部ならではの桃色れんが塀が、閑静な住宅街の特徴となっている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

桃色れんがは、粘土の代わりに石炭の燃えがらを主原料にしたリサイクル製品で、昭和40年頃まで作られていた。かつて石炭産業で栄えた宇部市の各所に桃色れんが塀が残っている。

■景観の見方（主な視点場）

路地を歩きながら、落ち着いたまちなみを楽しむことができる。また、微妙に色の異なるれんが塀を見比べることも興味深い。



所在地：宇部市島一丁目

アクセス

●電車：JR宇部線宇部新川駅～徒歩で約5分

●車：山陽自動車道宇部ICから約10分



■ 景観の特徴、地域特性

宇部市の中心部に位置する幹線道路として、中央分離帯の植栽、照明・信号機、電線類の地中化など景観に配慮した整備が進められ、整然とした美しい道路景観を形成している。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

戦後に幅員36mの道路として整備された。中央分離帯には戦災復興事業の完了を機に、「戦災からよみがえった都市」との意味を込めてフェニックスが植樹された。

■ 景観の見方（主な視点場）

国道490号と国道190号の交差点から南東方向に眺めるとこのような道路景観が見られる。



所在地：宇部市松山町二丁目周辺
 アクセス ● 電車：JR宇部線東新川駅～徒歩で約5分
 ● 車：山陽自動車道宇部ICから約10分



■景観の特徴、地域特性

宇部市の中心街を流れる真締川の両岸は公園として整備されており、市民の憩いの場として親しまれている。また、様々な彫刻が設置されており、夜間はライトアップされ、昼間と異なる公園を楽しめる。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

真締川は、江戸時代に河川の氾濫を防ぐため付けかえられた川である。平成5年からは「真締川ふるさとの川整備事業」により護岸を含めて整備が行われた。

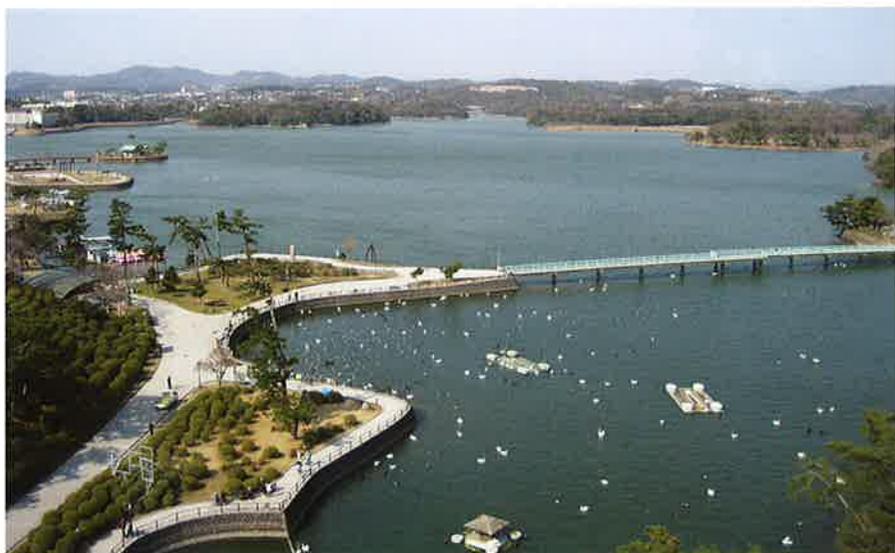
■景観の見方（主な視点場）

山口大学病院東側の遊歩道からの川面の眺めが良好である。階段状の護岸に腰をすえて眺める景色も気持ちを和ませてくれる。



アクセス

- 所在地：宇部市常盤町一丁目周辺
- 電車：JR宇部線宇部新川駅～徒歩で約10分
 - 車：山陽自動車道宇部ICから約15分



■景観の特徴、地域特性

常盤公園は、宇部市のキャッチフレーズである「緑と花と彫刻のまち」のシンボルとして、また、四季折々の風景が楽しみ、自然景観に恵まれた憩いの場として、市民をはじめ訪れる人々に親しまれている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

常盤湖は周辺の灌漑用水池として江戸時代に築造された人造湖である。昭和32年にオランダ・ドイツから輸入された50羽の白鳥がこの湖に放たれた。現在では、白鳥、ペリカンをはじめとする500羽以上の鳥が飼育されている。

■景観の見方（主な視点場）

公園の一角に建つ石炭記念館内の展望台からは広大な湖を一望できるとともに優雅な白鳥の遊泳も眺めることができる。

アクセス

- 所在地：宇部市野中三丁目 石炭記念館
- 電車：JR宇部線常盤駅～徒歩で約15分
 - 車：山陽自動車道宇部ICから約15分、
山口宇部有料道路宇部南ICから約5分





■景観の特徴、地域特性

桃色れんが塀は団地入口を飾るモニュメントである。大正期に建設された紡績工場の建物の一部がまちの歴史を伝える遺跡として残されている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

紡績工場は、石炭産業を興し宇部市の発展に貢献した渡辺翁が建設したもので、昭和初期には1,400人もの従業員が働いていた。琴芝県営住宅を整備するにあたり、近代宇部を象徴する産業遺跡として保存してほしいという市民からの要望もあり、琴芝れんが広場として整備された。

■景観の見方（主な視点場）

真締川^{まじめがわ}側の歩道から団地側を眺めると、れんが広場がよく見える。



所在地：宇部市琴芝町一丁目

- アクセス
- 電車：JR宇部線宇部新川駅～徒歩で約5分
 - 車：山陽自動車道宇部ICから約15分

65

あさかわ
厚狭川の桜並木（美祢市）

■ 景観の特徴、地域特性

美祢市を代表する桜の名所であり、毎年春には市内外から多くの人々が見物に訪れる。夜間には提灯が灯され、暗闇に桜の花が浮かび上がる。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

昭和40年代の河川改修時に植付けられた約150本の桜（ソメイヨシノ）が、開花時期に川の兩岸を桜色に染める。毎年4月の第1土曜日には、「みね桜まつり」が開催される。

■ 景観の見方（主な視点場）

川面のせせらぎを聞きながら、平城橋や吉則橋から全景を見渡すのも、桜並木の下をゆっくり歩くのも良い。



アクセス

所在地：美祢市大嶺町吉則

- 電車：JR美祢線美祢駅～徒歩で約5分
- 車：中国自動車道美祢ICから約10分



■ 景観の特徴、地域特性

四季折々に表情を変える秋吉台では、晩秋の頃草原が褐色に染まる「草紅葉」を見ることができる。群生するススキの白い穂により、絨毯を敷き詰めたような褐色の台地を白い糸で縫ったかのような景観となる。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

秋吉台はドリリーネや鍾乳洞が発達した全国最大のカルスト台地であり、昭和30年に国立公園に指定された。かつて、秋吉台は森林であったが、中世、農業の発展に伴い木が切れ、一面の草原となった。

■ 景観の見方（主な視点場）

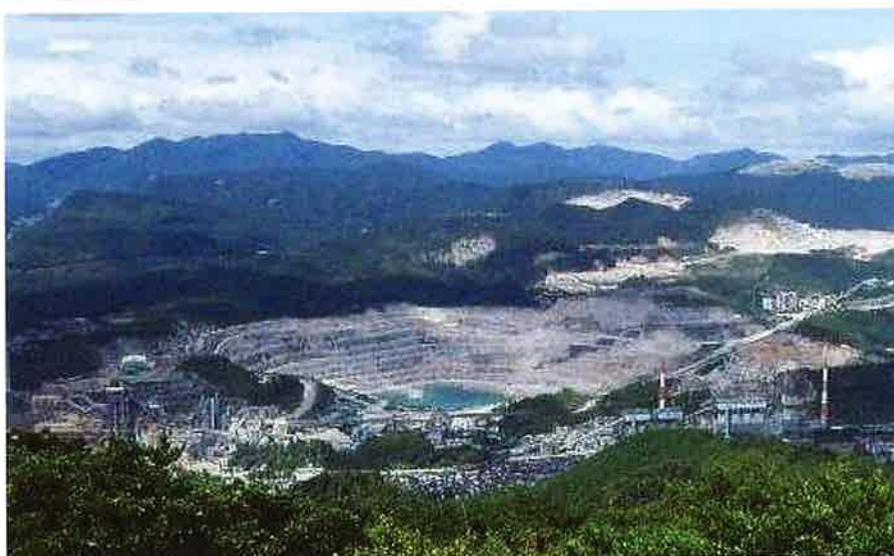
夕陽に映える草紅葉を展望台やカルストロードから見ると美しい。



所在地：美祢市 秋芳町 秋吉台

アクセス

- 電車：JR山陽本線新山口駅～バスで約40分
(秋芳洞バスセンター)、車で約30分
- 車：中国自動車道美祢ICから約20分



■ 景観の特徴、地域特性

桜山総合公園の頂上展望台からは、石灰石の採石場を望むことができる。山肌を掘鉢状に削り貫いた独特の景観を形成しており、古代遺跡を思わせる風貌と、その広大さは見応えがある。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

良質な石灰石に恵まれたこの地において、戦後の国土復興に欠かせなかったセメントを大量に製造するため、セメント・石灰工場に原料を供給する露天掘り鉱山として急速に発展を遂げた。

■ 景観の見方（主な視点場）

標高456mの高台にある桜山総合公園の展望台から全体を一望できる。車で頂上まで行くことができ、晴れた日には瀬戸内海も遠望できる。

アクセス	所在地：美祢市伊佐町南原
	● 電車：JR美祢線美祢駅～車で約10分 ● 車：中国自動車道美祢ICから約15分





■ 景観の特徴、地域特性

大岩郷は、街の喧騒から離れた山の中にある。岩の海とも形容され、積み重なった岩塊が迫力ある景観を作り出している。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

せきえいせんりよくがん
石英閃緑岩の巨石が積み重なっており、国の天然記念物に指定されている。岩石に割れ目ができて風化が進み、分離された岩塊が集積したものといわれるが、不明な点もある。

■ 景観の見方（主な視点場）

大岩郷は、こんびらやま金毘羅山南の緩い斜面にあり、遊歩道が整備されている。大きな岩の上に座って辺りを見渡すと、迫力ある景観を楽しむことができる。



アクセス

所在地：美祿市伊佐町奥万倉

- 電車：JR美祿線美祿駅～バスで約15分（大岩郷入口）徒歩で約10分
- 車：中国自動車道美祿ICから約10分

69

 さんようどう
 旧山陽道～厚狭駅前商店街のまちなみ(山陽小野田市)

■ 景観の特徴、地域特性

当時の面影を残す土塗り漆喰壁の古民家が狭い通りの両側に並んでおり、かつての宿場町のにぎわいを連想させるまちなみを形成している。厚狭川を渡る橋の欄干の飾りも風情がある。


■ 景観が育まれてきた経緯(歴史、文化等)

厚狭の旧市街地は、宿場町(半宿)として山陽道の重要な拠点であった。山陽道であった通りは、今でも道幅が狭く、古い木造住宅や商店も一部残っており、歴史を感じ取ることができる。

■ 景観の見方(主な視点場)

旧国道2号の一筋南側の道を歩いて、厚狭川を渡り、JR厚狭駅までのまちなみが見所である。



所在地：山陽小野田市厚狭

アクセス ● 電車：JR山陽本線厚狭駅～徒歩で約10分
 ● 車：山陽自動車道小野田ICから約10分



■景観の特徴、地域特性

硫酸瓶（硫酸等を入れるための容器）の空き瓶を使用した擁壁が市内各所に残っている。他の地域では見られない景観であり、小野田の歴史を語っているように見える。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

小野田はもともと、良質の粘土に恵まれ、古代より須恵器が製造されていた。明治24年、化学工場操業の際、製品の硝酸、硫酸等を入れるため、巨窯で硫酸瓶が作られるようになった。その空き瓶を利用し、石垣のように積み上げた擁壁が作られた。

■景観の見方（主な視点場）

市内巨東で、硫酸瓶が蜂の巣状に積み上げられている特徴的な擁壁を見ることができる。



アクセス

- 所在地：山陽小野田市巨東
 ●電車：JR小野田線目出駅～徒歩で約20分
 ●車：山陽自動車道小野田ICから約10分



■景観の特徴、地域特性

徳利窯とは、窯の形状が徳利に似ていることから付いた通称である。工場敷地内に専用の見学道があり、明治時代に築造されたセメント徳利窯を自由に見学できる。この窯は我が国に現存する唯一のセメント焼成用窯であり、小野田を発展させたセメント産業の遺産として市街地でのシンボルとなっている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

このセメント製造工場では、徳利窯の建造は明治14年から始まり、合計12基が設置された。現存する窯は、創業時に設置した4基のうち1基を改造大型化したものである。約12万5千個のレンガが使われており、高さは17.8mある。平成16年に国の重要文化財に指定された。

■景観の見方（主な視点場）

施設を前面から見るとスケール感を感じることができる。また、れんがの風合いに窯の歴史を感じる。



アクセス

所在地：山陽小野田市小野田
●電車：JR小野田線南小野田駅～徒歩で約5分



■ 景観の特徴、地域特性

焼野海岸は、山陽小野田市南部に位置する瀬戸内海に面した西向きの海岸で、周防灘に沈む夕陽が穏やかな瀬戸内海の海に映える様子は美しく、「日本の夕陽百選」に選ばれている。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

焼野海岸は、この地域では少なくなった自然海岸で、釣りや潮干狩りなど市民のリクリエーションの場として親しまれていた。高潮・高波から海岸を守るため護岸、突堤などを整備するとともに、背後の竜王山と一体となった整備が進められた。

■ 景観の見方（主な視点場）

夕陽の景観は素晴らしい。また、晴れた日には、遠く九州の国東半島まで見渡すことができる。



アクセス

所在地：山陽小野田市焼野海岸

● 電車：JR本山線長門本山駅～徒歩で約10分

● 車：山陽自動車道小野田ICから約15分



■ 景観の特徴、地域特性

絢爛豪華な衣装をまとった上臈が「外八文字」という独特の足さばきを披露する。古くから伝えられる下関の伝統文化であり、祭礼の景観として継承されている。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

先帝祭は、壇之浦の合戦で入水された安徳天皇を弔うため、その命日に遊女に身を落とした平家の官女達が参拝したことに由来する。源平壇之浦の合戦で滅びた平家一門を偲ぶ先帝祭は、関門海峡を舞台に繰り広げられた壇之浦の合戦の歴史を今に残す、歴史情緒豊かな祭りである。

■ 景観の見方（主な視点場）

上臈が外八文字を踏みながら水天門から本殿へ天橋を渡り歩く場面が祭りのハイライトである。



アクセス

所在地：下関市阿弥陀寺町

- 電車：JR山陽本線下関駅～バスで約10分
(赤間神宮前)
- 車：中国自動車道下関ICから約15分



■ 景観の特徴、地域特性

みどり豊かな山系に囲まれ、別名「小日本」と呼ばれる菊川平野を象徴する田園風景であり、四季折々の色合いや、人の営みが感じられるところである。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

桜井八幡宮は、貞観元年（859年）宇佐八幡宮より行教和尚が神霊を奉じ京に上がる際、その船が進まなくなったため御神託を受け、この里に神霊を分祀奉斎して創建されたと伝えられている。

■ 景観の見方（主な視点場）

桜井八幡宮の石段を上った境内から、眼下に広がる美しい田園風景を一望できる。



アクセス	所在地：下関市菊川町下岡枝
	● 電車：JR山陽本線小月駅～バスで約20分(込)
	● 車：中国自動車道小月ICから車で約15分



■ 景観の特徴、地域特性

源平壇之浦の合戦や明治維新など、歴史の節目に関わってきた関門海峡は、山の緑、空の青さ、そして関門橋とが一体となり、山口県の特徴の1つである海峡景観を形づくっている。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

関門橋は、本州と九州間の関門海峡を渡る高速自動車道として、昭和48年に完成した全長1,068mの橋である。関門海峡には、現在、1日に大小約700隻もの船が行き交っている。

■ 景観の見方（主な視点場）

火の山山頂の展望台から眺めると、関門海峡を一望でき、美しく一体感のある景観を楽しむことができる。



アクセス

所在地：下関市みもすそ川町（火の山山頂）

- 電車：JR山陽本線下関駅～バスで約15分（御裳川、火の山ロープウェイ）徒歩で約40分
- 車：中国自動車道下関ICから約15分



■景観の特徴、地域特性

砂浜の白、海の青、島々の緑の色彩の中に、柔らかな曲線を持つコンクリートの橋梁がかけられており、自然と見事に調和した景観となっている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

角島大橋は、角島と本土を結び、平成12年に完成した全長1,780mの橋である。できるだけ自然を壊さないように角島との間にある^{ほとしま}鳩島を迂回し、また桁高を抑える構造とするなど景観に配慮がなされている。

■景観の見方（主な視点場）

あまがさき海士ヶ瀬公園から角島大橋や海に浮かぶ島々を一望できる。また、橋上からは車を運転しながら流れる景観を楽しむことができる。



アクセス

所在地：下関市豊北町神田（海士ヶ瀬公園）

- 電車：JR山陰本線瀧部駅～バスで約25分
（附野海水浴場）徒歩で約5分
- 車：中国自動車道下関ICから約70分



■ 景観の特徴、地域特性

下関漁港を背景に、船舶が閘門を通過するのを見ることができる。水産基地として栄えた下関漁港の歴史を感じる場所であり、下関らしさの残る景観である。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

下関漁港と関門海峡を結ぶ日本最小の閘門式運河である。日本海と瀬戸内海の干満差によって生じる激しい潮流を抑制し、漁港の安全性を確保するためにつくられた。通過方法はパナマ運河と同様、船舶の通過時には架設されている市道が上方へ移動する。

■ 景観の見方（主な視点場）

彦島との間に架かる関彦橋の歩道から見ると、水門の迫力ある動きを見ることができる。



アクセス	所在地：下関市大和町二丁目、彦島本村町六丁目
	● 電車：JR山陽本線下関駅～バスで約5分(彦島口)
	● 車：中国自動車道下関ICから約10分



■景観の特徴、地域特性

唐戸地区には、近年、海響館、唐戸市場など、海峡沿いに建物が建てられ、関門海峡と一体となった新しい下関の都市景観を形成している。

■景観が育まれてきた経緯(歴史、文化等)

高さを抑えることや、建て方の工夫で後背地からの眺望や見通しを確保するなど、関門海峡との関わりを大切にした海峡沿いの建物などが、ランドマークとなる関門橋と一体となって関門海峡の景観を形成している。

■景観の見方(主な視点場)

唐戸栈橋、海響館ボードウォーク、唐戸市場前のボードウォーク、市場の屋上の芝生公園、姉妹都市広場など視点場はたくさんある。



所在地：下関市あるかぼーと周辺

- アクセス ●電車：JR山陽本線下関駅～バスで約10分(唐戸)
●車：中国自動車道下関ICから約10分



■景観の特徴、地域特性

古江小路は、城下町長府の中でもっとも城下町の面影が残っている場所のひとつである。菅家長屋門を中心に、左右に伸びた石垣の上に防壁として築かれた土塀が続き、江戸時代の長府の都市空間を彷彿とさせる。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

大化2年（646年）に長門の国府が置かれたことから、長府と呼ばれるようになった。関ヶ原の戦いの後、毛利輝元が一門の秀元に長府を中心とする三万六千石の領地を与え、長府藩が成立し城下町として発展した。なお、菅家は、長府藩初代藩主毛利秀元により京都から招かれ、この地に住んだ侍医兼侍講職である。

■景観の見方（主な視点場）

土塀や旧跡が各所に残されており、城下町をゆっくりと散策しながら、歴史的な雰囲気感を堪能することができる。



アクセス	所在地：下関市長府古江小路町
	●電車：JR山陽本線下関駅～バスで約25分（城下町長府）徒歩で約10分
	●車：中国自動車道下関ICから約10分

80 ライトアップされた下関の歴史的建造物群（下関市）

下関地域

歴史的な景観



■景観の特徴、地域特性

関門海峡沿いのエリアには下関の歴史を象徴する建造物が点在しており、海峡の街として繁栄した下関の歴史的雰囲気を醸し出している。また、夜にはライトアップにより、昼間には気づかなかったような新たな魅力を感じることができる。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

大陸への玄関口として発展してきた下関は、源平壇之浦の合戦でゆかりのある赤間神宮や、国際都市下関の象徴である旧下関英国領事館、日清講和記念館の他、大歳神社、亀山八幡宮など重要な歴史・文化資源を有し、これらの歴史的建造物を夜間ライトアップしている。

■景観の見方（主な視点場）

様々な建物を見ながら歴史を思い巡らせるのもよい。



所在地：下関市唐戸町 旧下関英国領事館
アクセス ● 電車：JR山陽本線下関駅～バスで約10分（唐戸から）
● 車：中国自動車道下関ICから約10分



■ 景観の特徴、地域特性

一樹のクスがあたかも森のように広がっており、壮大な自然の力を感じることができる。地域の鎮守^{ちんじゆ}の森として神聖な静けさを感じる景観である。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

「川棚のクスの森」は、観光地として知られ、また、地域住民の憩いの場となっている。樹齢約千年、目の高さの幹囲9.5m、高さ21m、樹枝の最長のものは南北27mに達している。

■ 景観の見方（主な視点場）

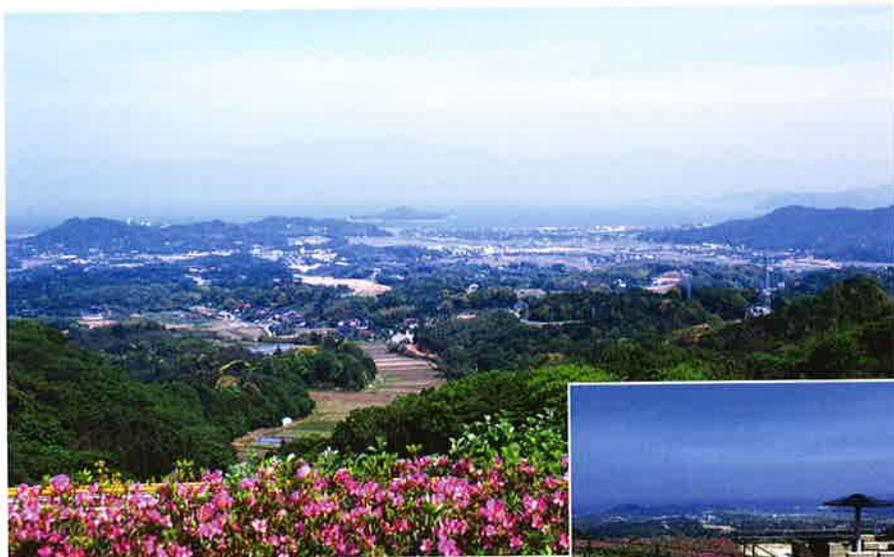
入口から全景を見ると、その大きさに圧倒される。また、間近で見ると、株の大きさや枝張りに力強さを感じる。



アクセス

所在地：下関市豊浦町川棚^{とようら}

- 電車：JR山陰本線川棚温泉駅～車で約15分
- 車：中国自動車道小月ICから約40分



■ 景観の特徴、地域特性

豊浦のまちを前景に海に浮かぶ厚島、水平線を望むことができる。訪れた人々を魅了する一大パノラマを楽しむことができる。



■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

響灘沖約2kmに浮かぶ「厚島」は男島・女島・竜宮島・石島の4つの島の総称である。平成15年度に完成したこの公園はリフレッシュパーク豊浦から内日地区に抜ける県道沿いにあり、地元の住民はもとよりこの町を訪れる観光客の憩いの場となっている。

■ 景観の見方（主な視点場）

公園からは、響灘の水平線を眼下に一望することができる。青い海に浮かぶ島の色も素晴らしいが、夕日に映える島々も非常に美しい。



所在地：下関市豊浦町吉永

- アクセス
- 電車：JR山陰本線川棚温泉駅～車で約15分
 - 車：中国自動車道小月ICから約30分、
下関ICから約40分